

道内 50年までに自然エネ200%

「エネチェン」海外にPR



北大准教授ら 行程表英訳版

自然エネルギー普及を訴える市民団体「北海道エネルギーチェンジ100ネットワーク」と北大大学院の藤井賢彦准教授（地球環境科学）は、道内での自然エネルギー導入の目標値を掲げたロードマップ（行程表）の英訳版を作成した。イン

ターネットなどを通して道内の省エネや「エネチェン」を海外にPRする。

行程表は同団体の研究者

やNPO関係者ら12人が2012年夏に策定。風力発電や太陽光発電などの自然エネを地域経済の新たなけん引力に育て、北海道を日本のエネルギー供給基地とする狙いがある。

する狙いがある。

自然エネルギー導入の行程表の英訳版をPRする藤井准教授。インターネットでも無料で閲覧できる。

30年に消費電力を10年比で39%削減する一方、自然エネの割合を2割から8割に引き上げるほか、道外への売電を視野に50年までに消費電力に占める自然エネの割合を200%に上げるなどの数値目標を盛り込んでいる。

英訳版は藤井准教授が監修し、昨年11月から作業を進めて今年4月に同団体のホームページ（HP）で公開した。アドレスはhttp://enechan100.com/roadmap/roadmap_en.html

藤井准教授は海外の学会などでの配布を考えており、「北海道は再生可能エネルギーの潜在能力が高い。行程表を通してクリーンな北海道のイメージを発信していきたい」と話している。